

7月度土曜例会

2018年7月21日

茨木市福祉文化会館 202号室

ゲスト：Tsuda・Ekaterina

Title：The status of Women in Modern Russian Society

本日は18年前に来日、北海道大学で現代日本文学の博士号を取得し、北海道で現在のご主人と出会い、高槻市に住んでおられるTsuda・Ekaterinaさんに講演いただきました。

“Born in Russia, Living in Japan”  
というサブタイトルでお話しされました。

内容は、

1. Moscow, the capital city
2. My hometown-Yuzhno-Sakhalinsk
3. Sakhalin nature
4. Why I was interested in Japan
5. Differences between Russia and Japan

そして、ロシアと日本の女性の置かれた環境についてお話しします。



ソビエト連邦下のモスクワで生まれたが、モスクワから11000km離れたサハリンの州都 Yuzhno-Sakhalinsk に移り、25歳までこの地で過ごした。

ソ連時代、サハリンは給与が高かったため、ご両親はそちらに移られたようです。

サハリンは日本に近く、宗谷まで40kmしか離れていません。

### 1. Moscow, the capital city

ソ連時代は緑豊かな街でしたが、現在は中心部では高層ビルが建ち並び、米日の景色と変わりません。

#### Moscow in Soviet period

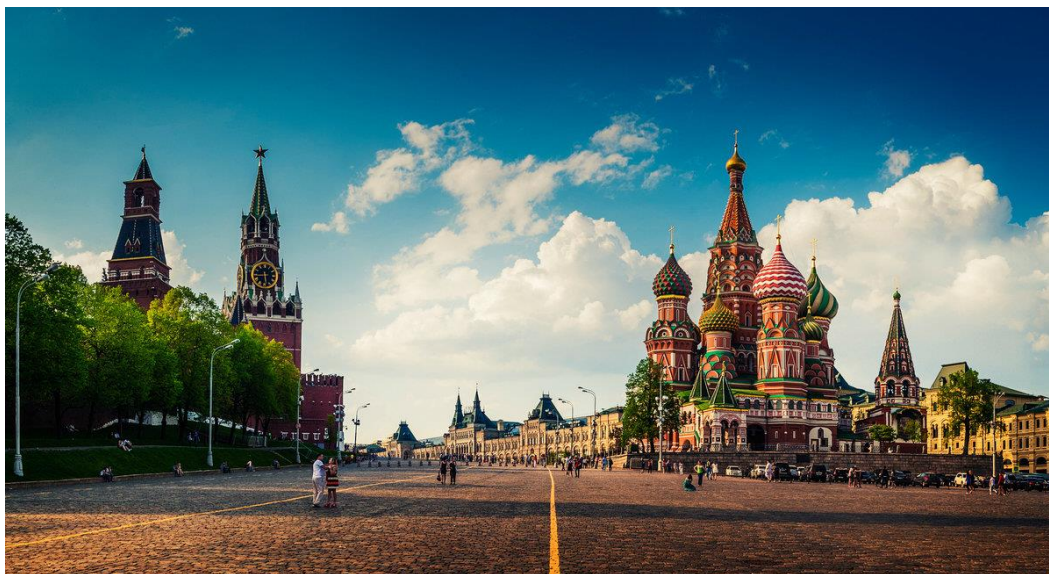


#### Moscow now



多くの催物が行われる有名な「赤の広場」は、800年以上前の建物も残っています。

The Red Square



## 2. My hometown-Yuzhno-Sakhalinsk

私の故郷である Yuzhno-Sakhalinsk は、冬は雪に覆われますが、夏は緑豊かな町となります。

私の暮らした通りの裏側にはスキー・リゾートがあり、山頂からは Yuzhno-Sakhalinsk のパノラマを楽しめます。

The street where my parents live



The same street in summer



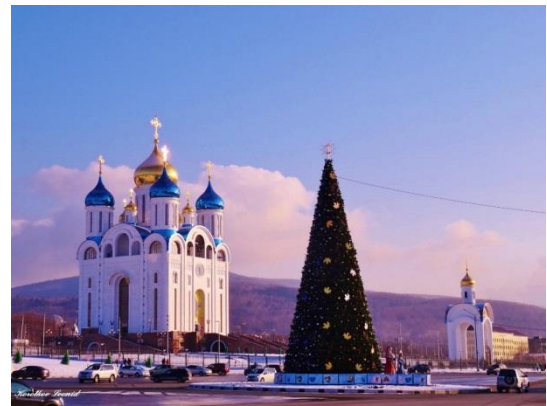
ロシアでは”Dacha”と呼ばれる都市部から車で 30 分位の距離にあるカントリー・ハウスが一般的で、週末や夏場を過ごすのに使われる。庭では野菜をつくり、冬場の保存食を作ったりする。従って、ガーデニングがロシアの主なホビーの一つでもある。



丘の上に Victory Square があり、この町には不釣り合いなくらいに巨大なロシア正教会も立っている。

The Victory Square

The Russian Orthodox Church and the Christmas Tree



### 3. Sakhalin nature

山に囲まれた京都のような場所であり、日本の建築も残っている。

The museum of Regional Studies  
(former Karafuto government building)

The Art Museum  
(former Karafuto Bank)



冬場は、樹氷の美しい山々となり、夏場は知床のような風景が広がる。



#### 4. Why I was interested in Japan

カレンダーで見た日本の美しい庭園魅かれた。

ロシアでは、広大なパノラミック・ビューが美しいものとして写真などにも取り上げられるが、日本では桜の花に焦点を合わせた写真がある。



Detail にこだわり、それを追求する日本に興味を持った。

アートやハンド・クラフトの製品などにも、日本の美に対するこだわりを感じ、ロシアとの違いに魅せられた。

#### 5. 日ソの違い；特に女性の置かれた環境についてのお話。スライドなし

18年前に日本に来た時、ロシアと日本のライフスタイルの違いに驚いた。特に、日本の女性は、働かなくても良いという選択肢があるというのは驚きであった。ロシアでは考えられないことであった。

社会主義革命後のソ連邦時代、男女は機会均等が当然であった。パイロット、研究者、医者という男性の職業に女性が多く進出した。

史上初の宇宙飛行士はテレシコワさんで、80歳を過ぎた現在でも政界で

下院議員として活躍している。

実際、彼女の母はエンジニアであり、父とは大学のエンジニアの仕事を通じて知り合った。

保育・幼児教育システムを充実させ、女性が働ける環境を作った。

一方で、一人の収入では、家のローンを払い、十分な教育をし、ロシア人の尊敬される人としての体面を保つことは難しかった。

率直に言うと一般的にロシアの男性は信用ができない。

男性によっては2、3回結婚するのが当たり前である。

従って、女性にとっては、夫が去った後でも、子供を育てるために働く必要性が高い。

歴史的に、20世紀にロシアは多くの戦争を戦い、男性の多くが戦死したので、女性は強くなるとともに、男女比のアンバランスが起こった。

また、ロシアの男は危険を顧みない男らしさを誇る傾向があり、自動車の高速運転や過度の飲酒やドラッグが、若年層の男性不足を加速した。

従って、女性にとって、男性獲得競争が激化している。

一般的にロシア女性は美しい。

一つは、男性を獲得して結婚するために美しくなっているとみえる。

見かけを気にするというのが大きな要因の一つである。

勿論、ロシアは200以上の民族の血が混ざっているが故に、美しいのも事実である。

ロシアでは離婚は非常に容易である。

ロシアの女性は外国人との結婚を望む傾向がある。

1980年のモスクワ・オリンピック後はベビー・ブームが起こったそうです。

今回のFIFAのワールド・カップ後にも海外から応援に来た人たちとの間にロマンスの花が咲くかも。

本題に戻ると、いずれにしろ、男女比のアンバランスが、ロシアの女性を肉体的にも精神的にも強固にした。

2000年頃から、少しずつ変わってきている。

女性も男性も、スポーツを心がけ、食べ物に注意を払い、健康やルックスを気にするようになってきた。

また、結婚にこだわらない女性が増え、シングル・マザーも増えてきている。

日本の女性は幸せである。

働く・働かないという選択肢があり、子供の成長に合わせて選択できる。

私は、幸いにも日本人と結婚したので、フルタイムではなく、英語教師をしたり、翻訳や通訳の仕事をしたり、ツアー・ガイドをしたりしている。

ロシアでのホビーは、ガーデニング、そして男性なら釣りやハンティングが多い。

日本では、数多くホビーがあるのに驚いた。

お花、お茶、旅行、ヨガなどがあり、地域のコミュニティーセンターで多くの人が一緒にホビーを楽しんでいる。

ロシアでは家族や友人単位が多く、有名ではない人の講演会に行ったりはしない。

ロシアでは、劇場に行ったり、アイスショーを見たり、屋外でバーベキューをしたりして楽しんでいる。

また、子供の世話をよくするので、ロシアではおばあさんの存在が大きい。

質疑；

- ・ロシアの女性は、お金を稼ぎ、独立心が強いので、良いのではないか？

日本の男性は、ロシアより子供の面倒をよく見ていると思う。

ロシアの男性は、ほとんど家事は手伝わない。

日本の女性は選択の自由があるが、ロシアでは女性が働くのが当然という感じである。

- ・女性の状況での地域性はないですか？

モスクワなどの大都市圏では独立志向が強いが、地方ではキャリアを築きにくかったり、旧来の男性優位の家族体系に依存する傾向がある。

サハリンは油田の発見により、モダンでヨーロッパスタイルの生活様式がある。

- ・保育園や幼稚園が日本では問題だが、ロシアでは？

ロシアでも日本に似ている。

ソ連邦時代はサナトリウムなどを含め社会インフラが充実していたが、現在は費用高騰が大きく、幼児教育の分野でも例外ではない。

- ・日本庭園に興味があったとのことであるが、行って良かったと思うのは？

京都も良いが、兵庫や奈良にも良い庭園があった。

他にも、書道や日本文化や考え方は、期待を裏切られるものはなかった。

この後、グループ討論に移り、エカテリーナさんが各グループを回って討論に参加された。